

戦後80年特別企画

★前進座公演

朱海青 脚本
鶴山 仁 演出
乗峯雅寛 装置
田中裕太 照明

笑いであればありませぬ!

【ものがたり】

昭和14年(1939年)、戦勝に沸く帝都東京。狸塚町では若い落語家・弥次郎の出征を祝う壮行会の真っ最中。見送るのは師匠の蝶楽亭双六、弟子の軽太、評論家の無笑庵先生、そして秘かに弥次郎を想う幼友達のみち代、犬の「寿限無」……。みち代の親友・園子は寄席の娘で、軽太と共に、みち代と弥次郎の恋の応援団長。

弥次郎の最後の高座を、思いつめたように聴いていたわけありの若者・正直は、前座不足に悩む寄席の人々に誘われ、『ぜん米』の名前をもらって落語家修行を始める。辛い時代でも、シャレや笑いを決して忘れない落語家たちに囲まれ、ぜん米は次第に心を開いていく。

戦況の悪化、軍部からの圧力……活路を見出すべく、落語家たちは廓(くわく)や色恋の噺(はなし)53席を『禁演落語』に選定し封印。戦時下の政策を喧伝する『国策落語』を上演する。軽太が『国策落語』で売れる一方、古典派の双六は無笑庵先生と大喧嘩。弥次郎は戦地で負傷し、帰ってはくるが、その目に以前の快活な光はなかった……。

「笑いたい」気持ちを「戦争」に利用された、80年前の苦い過去を二度と繰り返さない、という「噺家」たちの想いに重ねて、前進座がお届けする「笑い」と「真心」の物語。



渡会元之



黒河内雅子



中嶋宏太郎



浜名実貴



嵐芳三郎



柳生啓介



藤川矢之輔



益城孝次郎



今枝鈴



和田優樹



玉浦有之祐



有田佳代



新村宗二郎



チラシ表を飾る「切り絵」は、寄席紙切り芸の第一人者、三代目林家正楽師匠による「東西寄席演芸家名鑑」(2015年刊)表紙に使われた作品です。観客からのリクエストで、次々と1枚の紙からハサミ1つでどんなものでも即興で切り抜く至芸を、かつて「前進座劇場初春公演」でもゲストとしてご披露いただきました。



鶴山 仁 (うやまひとし) プロフィール

文学座代表。ウィット溢れる演出術で俳優の意外な一面を引き出す手腕と、言葉から着想される膨大なイメージをあらゆる表現・素材を使って劇空間に現出させる力に定評がある。2004年、第11回読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞を受賞。その後も傑作を生み出し数々の賞に輝く。主な代表作に『ギリクス』(第25回紀伊國屋演劇賞団体賞)(文学座)、『父と暮せば』『円生と志ん生』(以上こまつ座)『ヘンリー六世』(新国立劇場)、またオペラやミュージカルなどの演出も手懸ける。前進座では『ちひろ一私、絵と結婚するのー』『残り者』(朝井まかて原作)に続き、朱海青とのタッグで3作目となる。2020年、紫綬褒章受章。

2025年

10月4日(土)～11日(土) 日本橋・三越劇場

9月26日(金) 立川・たましん RISURU ホール 大ホール

9月30日(火) 武蔵野・武蔵野市民文化会館 大ホール

【ご観劇料金】(全席指定・税込)

A席 8,500円 / B席 5,000円 / C席 3,500円 ※三越劇場にC席はございません。

【お問合せ】

前進座東京事務所 TEL:0422(49)2811
(平日 10:00～17:00)

■前進座Webサイト <http://www.zenshinza.com/>

■E-mail: tokyo@zenshinza.com

〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町2-4-3
劇団前進座ビル